

【石井英真（京都大学） 自己紹介（問題関心）資料（2021年4月28日）】

- **現場のエンパワメントと挑戦と自走を促すガバナンス**へ。決めて下ろすベクトルよりも、子ども、あるいは教師を大海に「放流」してその経験から教師、あるいは行政が学んでいく構造に（**委ね放流するマネジメント**）。
- 学校の仕事、教師の仕事、カリキュラムの「**コア**」（**ここだけはゆずらない、ここだけはしっかりやりきる**）を**明確**にし、条件を整備し、現場に委ねる。
- 改革のための改革、マジックワードの飽和状態を、改革の実質化に向かわせる上で、**概念の刈り込みや整理**が必要。**新学習指導要領**を軸に「**令和の日本型学校教育**」などで示された**諸概念を整理・構造化**する。今は実装・検証の局面。
- 学習権を保障することこそ学校の仕事、教師の仕事の**コア**。
- **学習権を保障するとはどういうことか**を詰める。**学習観を後退させない**。
- 「**公正で質の高い学び**」とは何か。量から質へのシフト。先取りは熟考の機会を奪い、個人化は分断につながりがち。「公正さ」の追求として「個別最適な学び」を捉え、「質の高さ」の追求として「主体的・対話的で深い学び」を位置づける。対話の中で自立した個を育てる。
- 理念やコアは明確にしつつ、**手法に関わる「○○教育」「○○学習」「○○な学び」といった言葉の濫発は慎重に**。核となる概念を軸に **Less is more** へ。

質と公正の現代的関係性（ジレンマから往還へ）

- 「卓越性（excellence）」と「平等性（equality）」をジレンマとして語ってきた構図を問い直す。**卓越性**は量的に早く、より難問や発展的な問題にという、既存の価値軸の中での**高度さ**を志向しがちであった。逆に、**平等論者**は学力の中身を括弧に入れて、その質を問わずに、**一定水準の面の保障**に力点を置きがちであった。
- 「平等」は「公正」として捉え直されることで、**一人一人の状況に応じながら、生活の自由や生き方の幅をすべての人たちに保障すること**と定義され、**その人なりの善さ、学びの質**という点を問わざるを得なくなる。ただし、それぞれの自由を追求することは、自由を追求する土台となる有限のリソース（社会的基本材）の不均衡の問題、誰か（特に見えない特権を持つ者）の自由の追求が他の人のリソースを少なくする可能性があるといった、分配の不均衡を見えにくくするため、共通善に向けた自由の範囲の吟味と、有限のリソースの再分配や分かち合いの視点を忘れてはならない。また、それぞれのニーズに応じ自由を尊重することは、公共的価値の観点から調整されるべきものであり、**公正の問題において重要なのは、「その社会の成員（市民）であれば誰もが実現しえてしかるべき（と判断される）基本的な機能」**（齋藤純一『不平等を考える』筑摩書房、2017年、142頁）という**社会の責任の範囲**であり、自由の**際限なき追求を許容する議論**ではない。
- 「卓越性」は「質」として捉え直されることで、**学力の質や学びの深さ**として定義され、それは浅さよりも深さを志向し、個別化（量的差異と垂直的価値）よりも**個性化**（質的差異と水平的価値）を志向し、**対話や協働を伴う豊かな学習環境を通して理解（understanding）や真正の学び（authentic learning）**の実現を志向する（ダーリング・ハモンド, L.（深見俊崇編訳）『パワフル・ラーニング』北大路書房、2017年。）

出典：国立教育政策研究所 令和2年度教育改革国際シンポジウム（令和3年2月16日）の資料より

https://www.nier.go.jp/06_jigyou/symposium/sympo_r02_02/#handouts

コロナ禍を経て問われる教科教育の存在意義

- 個別最適な学び、修得主義、ICTと教育データ利活用、働き方改革、カリキュラムオーバーロードの解決、これらが機械的・行動主義的学習観と結びつき、スマート化、効率化の文脈で実装されると、教科教育はAIドリルで代替可能な、目標項目の系列をクリアしていく検定試験的カリキュラムに矮小化されかねない。そして、知識の習得と思考力の育成を、情報獲得とスキル形成として二元的に捉える見方を背景に、教科学習は時間短縮の対象とされる。
- 学校の内と外での学力観・学習観のギャップの拡大。教育制度において実装される構成主義的学習観、一方で、機械的で行動主義的なものへと単純化していく市井の学力観・学習観。

出典：教育関連学会連絡協議会主催シンポジウム

「21世紀の教科教育とその新しい研究」の資料より (<http://ed-asso.jp/>)